

# 母校で奮闘！未来の教師たち

今年も錦城に教育実習生がやってきた。10月26日(月)から11月14日(土)まで、錦城高校43回生、51回生、52回生の大学生が教育実習を行う。今号では3週間にわたりお世話になる11人の先生に取材した。(編集部共同取材)

## 林靖英先生(現代文)

大学ではフランス文学や日本の近代文学を中心に学んでいるという林先生。趣味はブラジルの格闘技であるカポエラと、友達を作ることだそう。カポエラは、NHKのテレビ番組で放送されていた特集を見てかっこいいと感じ、6年ほど続けているそうだ。

林先生は錦城生の雰囲気を「エネルギーでとてもいいと思います。授業の中で、問いを投げかけた時に反応してくれて助かっています」と話す。最後に「自分から動かないと分からないことも多いので、知識よりも体験を大切にしてもらいたいです」とアドバイスした。

## 神田千夢先生(現代文)

神田先生は、錦城生時代から日本文学に興味があったという。長島敦の「環礁」という作品に影響を受けて、大学では日本文学を学ぶことに決めた。その後、日本文学の魅力を伝えていく職業に就きたいと思い、現代文の教師を目指すことに決めたそうだ。

授業をしてみた感想を「自分の練習不足を痛感しました。教育実習を通してもっと上手に教えられるようになりたいです」と話す。最後に錦城生へ「自分も錦城の先生にお世話になったので、何か困ったときは私を含め色々な先生に相談して下さい」と笑顔で呼びかけた。

## 文系



左上から時計回りに、林先生、白石先生、平方先生、神田先生

## 白石古都先生(古文)

「誰かのヒーローになる人生のヒロイン」をモットーにしている白石先生は、大学で日本の文学やデザインを学んでいるという。「憧れる大人」というものを考えたときに高校時代の担任が思い浮かんだことで教師を目指し始めた。「古文を好きになってもらうこと」を目標として、現代でも共感できる箇所を探しながら授業をしているそうだ。

最後に錦城生に向けて「数字だけに左右されず、やりたいことに向かってほしいです」と話した。

## 平方加奈子先生(政治経済)

将来は、どんなことでも親身になって生徒をサポートしてあげられる先生になりたいと意気込む平方先生。錦城在学中はバレエ部に所属し、セッターを務めていたそうだ。「部員が少ない中、仲間や先生たちと濃い時間を過ごせていました」と笑顔で思い出を語る。

平方先生が考える政経の魅力は生活に身近なことを学べる点。「普段からニュースに目を向けることで政経の勉強がより楽しくなると思います」とアドバイスをくれた。最後に「授業も生徒の皆さんとの交流も積極的にして、夢に近づける3週間にしたいです」と話した。

## 福島妙先生(数学)

錦城生時代はバドミントン部の活動に打ち込んでいたという福島先生が教師を目指すようになったきっかけは、中高生時代に生徒の良さを引き出す先生たちと出会ったこと。自分も同じように生徒に向き合える教師になりたいという。

また、自分を表す一言を「真面目か自由」とし、やることはやる真面目な一面を持つ一方で、気分屋な面を持っていると話す。最後に、錦城生に向けて「夢に向かって今を全力で楽しんで過ごしてほしいです」とエールを送った。

## 理系



左上から時計回りに、福島先生、立河先生、重成先生、小西先生、野村先生

## 立河しおり先生(数学)

錦城生時代の特に印象に残っていることについて「週に6~7日、ハンドボール部で活動していたこと」と振り返る立河先生。趣味は読書をする、YouTubeを観ること、人と話すことだそう。

教師になろうと思ったきっかけは、高校3年生のときの担任だった理科の先生の「授業中に話したい人は教師になれ」という言葉。目標として常に勉強し続けられる先生になることを掲げた。最後に錦城生に向けて「勉強も部活も遊びも恋愛も全力で取り組んで、楽しい高校生活にしてほしいです」とメッセージを送った。

## 重成希先生(化学)

重成先生が教員を目指したきっかけは、錦城の先生方に現在の大学生活にも通じるチャレンジ精神を教えてもらい、憧れを持ったこと。「勉強が苦手な生徒でも分かる授業」をして、喜びを感じてもらいたいと語る。化学を選んだ理由については「化学の内容は自分たちの身近な事物に繋がっていて、面白いと感じたからです」と話した。

最後に「自分の思う理想の教師像に近づいていけるように、吸収できることをとにかく吸収して、自分を磨き上げていきたいです」と意気込みを語った。

## 野村和盈先生(生物)

錦城生のイメージについて勤勉だという点を挙げた野村先生。教師を目指すようになった理由は、専攻している生物に携わる仕事に就きたいと思ったからだそう。自分を表す一言についても「変化」という言葉を挙げたように、数ある職業の中から教師を選んだ理由は短い期間で変わる環境で自らを成長させたいからだという。

最後に錦城生に向けて「進路を選択する際に手を抜くと後悔することもあると思いますが、苦労した分だけ楽しいことがあるので頑張ってください」とメッセージを送った。

## 小西沙也加先生(物理)

小西先生は錦城生時代、弓道部に所属していたという。錦城生時代の思い出を「スキー修学旅行で地元のインストラクターの方と話せたこと」と語る。

教師を目指そうと思った理由は、中学校2年生のときに来た新任の先生がはきはきと教えてくれたことに憧れたからだという。元気で熱心に教えられる先生を目指しているそうだ。最後に錦城生に向けて「勉強も難しくなるし、高校卒業後の進路で迷うこともあるかもしれませんが、とりあえず今の高校生活を楽しんでほしいです」とメッセージを送った。

# 東京と地方をつなぐオリパラ2020

10月11日(日)にZOOM上で文化プログラムの企画として青柳正規さんへのオンライン・インタビュー会が開催された。青柳正規さんは前文化長官で、現在は2020東京オリンピック・パラリンピック大会組織委員会の文化・教育委員会委員長を務めている。取材会には全国から有志の高校生が集まり、錦城高校の新聞委員2人が司会者として共同通信社で進行を行った。

青柳さんは、コロナウイルスにより大会延期が決まったことを残念だとした上で、新たに得られるものはないかと考えたそう。その結果「肥大化していたオリンピックが本来の姿に戻る点は良かったと感じています」と語る。また、人類にとってオリンピックがどれほど大切なものが再認識する機会になったと話した。

質疑応答の時間では「お話の中で『みんな』という言葉が何回も登場していますが、『みんな』することの最大の魅力は何ですか」という質問が。青柳さんは「みんなですること、同じジャンルの中での違いに気づくなど新しい発見ができます。将来に対して、自分たちの文化の豊かさを知り、それを発展させていくアイデアが出てくるのが魅力です」と話した。

オリンピックは世界的なスポーツの祭典であると同時に文化の祭典でもあるという。来年の7月23日に開催されるまでの準備期間を有効に使い、新聞を通して情報を発信していく立場として、文化の発展のためにできることを模索していきたい。(明)

文化プログラム…オリンピックに向けた文化復興活動のこと。オリンピック開催国では準備の4年間、様々な文化活動を推進することがIOCによって義務づけられている。



「準備期間が増えたとポジティブに考えたいです」

## 大塚帆乃夏先生(体育)

楽しく、分かりやすい授業ができる教師を目指している大塚先生。教師を志した理由について「昔から体育が好きで、苦手な人にもその楽しさを伝えたいと思ったから」と話す。錦城生時代はダンス部に所属しており、錦城祭などの舞台に出たことが思い出に残っているそうだ。また、今の錦城生の印象について「授業をしっかり聞いてくれる人が多いです」と語る。

最後に錦城生へ「高校生活は今しか味わえないので、部活や勉強など今しかできないことを楽しんでほしいです」とメッセージを送った。

## 体育



左から大塚先生、森谷先生

森谷和貴先生(体育) 趣味はロックを聴くこと、ELLE GARDENやUVER WORLDなどの楽曲がお気に入りだという森谷先生。今回の教育実習について「自分と出会うことで何か残せたらと思います」と意気込む。常に生徒のことを一番に考え、何かしらプラスになるものを残せる教師になりたいという。錦城生時代の担任の先生に憧れて教師を志した。担当教科の体育の魅力について「勉強の息抜きとして楽しく受けられることです」と話す。最後に「高校の友達を大事にして、今できることを思いきりやってほしいです」と締めくくった。

## 大会報告

- 弓道部 10月25日(日) ▼東京都秋季大会 男子団体4位
- ソフトボール部 10月25日(日) ▼第50回東京都高等学校ソフトボール新人大会 二回戦進出

## 生徒会動静

- 10月27日(火) 選挙管理委員会
  - 10月28日(水) HR委員会
  - 10月29日(木) 合唱祭実行委員会
  - 10月31日(金) 図書委員会
- 体育学芸委員会